

—— 報告内容 ——

- 1 団体交渉途中経過（書記長 松本）
- 2 組合アンケートについて（副委員長 大島）
- 3 第39回教研集会について（委員長 大日方）

1 団体交渉途中経過（書記長 松本）

日時:11月29日(水)10時~10時50分

場所:本部棟1階 第2会議室

団体交渉出席者(速報につき詳細は記していません)

組合側:大日方委員長ほか6名

大学当局側:藤田理事、松浦理事、鈴木総務部長ほか人事労務課職員、計8名

団体交渉は、2017年の6月14日付けにて申し入れた「国立大学法人島根大学における無期転換ルールへの早急な対応を求めます」に対する回答がまだにない事を受けて、団体交渉の申し入れを11月8日付けにて行い、今回の交渉に至ったものです。

今回のニュース速報では団体交渉が引き続き継続している事(決裂ではない)が一番の成果であり、組合の要求に近づける道筋がみえてきつつあると団体交渉出席者はみています。

以下、詳細は教研集会(12月14日(木))に報告をしますが、以下、要点のみ報告いたします。

- ・団体交渉は継続します(ただし、急を要する内容を含むため次回を早急に設定します)
- ・組合から求めていた有期雇用職員のうち、大学当局側でも4職種(附属病院で勤務する「病院クラーク」「医師クラーク」「病院系技術補佐員」「ナーシングアシスタント」)については、今後の規則改正にて無期転換をはかる予定、また障がい者雇用枠で雇用されたものなどについても無期転換をはかる方向で検討中、技術補佐員のうち研究開発能力強化法にもとづくものについても検討中(来年度4月から実施?)である旨が説明された。
- ・上記以外の職種は規則上も5年を超えて雇用する事はない(権利が発生しない)旨の説明があった。
- ・それに対し、組合から規則改正を目指して今後も交渉をしていきたいが、現行の就業規則の中でも9条にあるように「真に大学当局が認める者」として無期転換がはかれるのではと詰めた。
- ・今後、以上について当局側は「交渉のテーブルについた」という認識にあり、組合側の要求を勝ち取るように活動を継続します。
- ・また、交渉に至るまでには、大学当局と組合側の労使間において情報交換・意見交換の機会がなく、故に、今回のような事態を招いているとの認識のもと、定期的な懇談会の設置を申し入れた。これについては、当局側も前向きに検討(回答)をする旨の発言があった。交渉出席者から

も、この部分については、勝ち取った(予定)との認識です。

以上、詳しくは教研集会にてご報告します。

## 2 組合アンケートについて (副委員長 大島)

島根大学職員組合では、職場の労働環境改善に向けて様々な活動を行っております。今回、調査部では皆様の労働環境改善に向けた活動の資料とするためアンケートを実施させて頂くことになりました。お忙しいところではございますが、是非このアンケートにご協力頂きますようお願い申し上げます。

なお、アンケートの配布、回収、回答のしやすさなどを勘案し、今回は WEB 上でのアンケート形式を取らせて頂くことと致しました。近日中に皆様には「島根大学職員組合調査部」名で [enquete@questant.jp](mailto:enquete@questant.jp) <<mailto:enquete@questant.jp>>という送信元アドレスより「アンケート回答のお願い」というメールをお送りいたします。クエストとはネットリサーチを行っているマクロミル社のセルフアンケートツールです。このメールに記入してあります URL からアンケートにお答えいただく形となります。

なお、アンケートの回答は統計的に処理され、特定の個人が識別できる情報として公表されることはありません。何卒、ご協力よろしくお願い申し上げます。

## 3 第 39 回教研集会について (委員長 大日方)

日 時:12 月 14 日(木) 18 時~20 時

場 所:法文学部2階多目的室1

内 容:「島根大学の働き方を考える～現状把握と課題解決に向けて～」

### 1 中央執行委員会報告

「組合アンケートについて」大島副委員長

「雇い止め問題についての団体交渉報告」松本書記長

### 2 支部報告

#### 1.「職場環境の安定化」(仮題) 報告者:谷口智紀(法文支部長)

安定的な職場環境の整備は喫緊の課題であるとされているにもかかわらず、具体的な対応ははまだ示されていないのが現状である。そこで、法文学部および各機構(センター)における問題を踏まえて、職場環境の整備のあり方を探りたい。

#### 2.「教育学部における教育課程の変更と教育の質の保証という問題について」 報告者:西田忠男(教育支部長)

教育職員免許法の改正と連動する形で、本学部では「技術家庭科免許」及び「幼稚免許」取得に係る開講科目が大幅に減少した。これを例にして、大学としての教育の質の低下という問題について考察する。

3.「総合理工学部支部報告」報告者：倉田健悟(総合理工支部長)

島根大学の労働環境に関する問題の一つとして、休日出勤の扱いの問題について紹介する。これは総合理工学部支部だけの問題ではなく、職員の働き方に関する問題として、組合で取り組むべきことに該当すると考える。

4.「学部改組を振り返る」 報告者：中務明(生物資源科学部支部長)

3年前の学部改組に関して、主に入試についてどう変わったのかを紹介します。

5.「事務系職員の超過勤務の実態を探る」 報告者：江角真琴(職員支部長)

本学では、従来から職員の超過勤務縮減に取り組んでいるが、業務量は増える傾向にあり、実現可能性は乏しいと言わざるを得ない。実際の超過勤務データを見ながら実態を探ってみたい。

-----組合臨時ニュース：以上